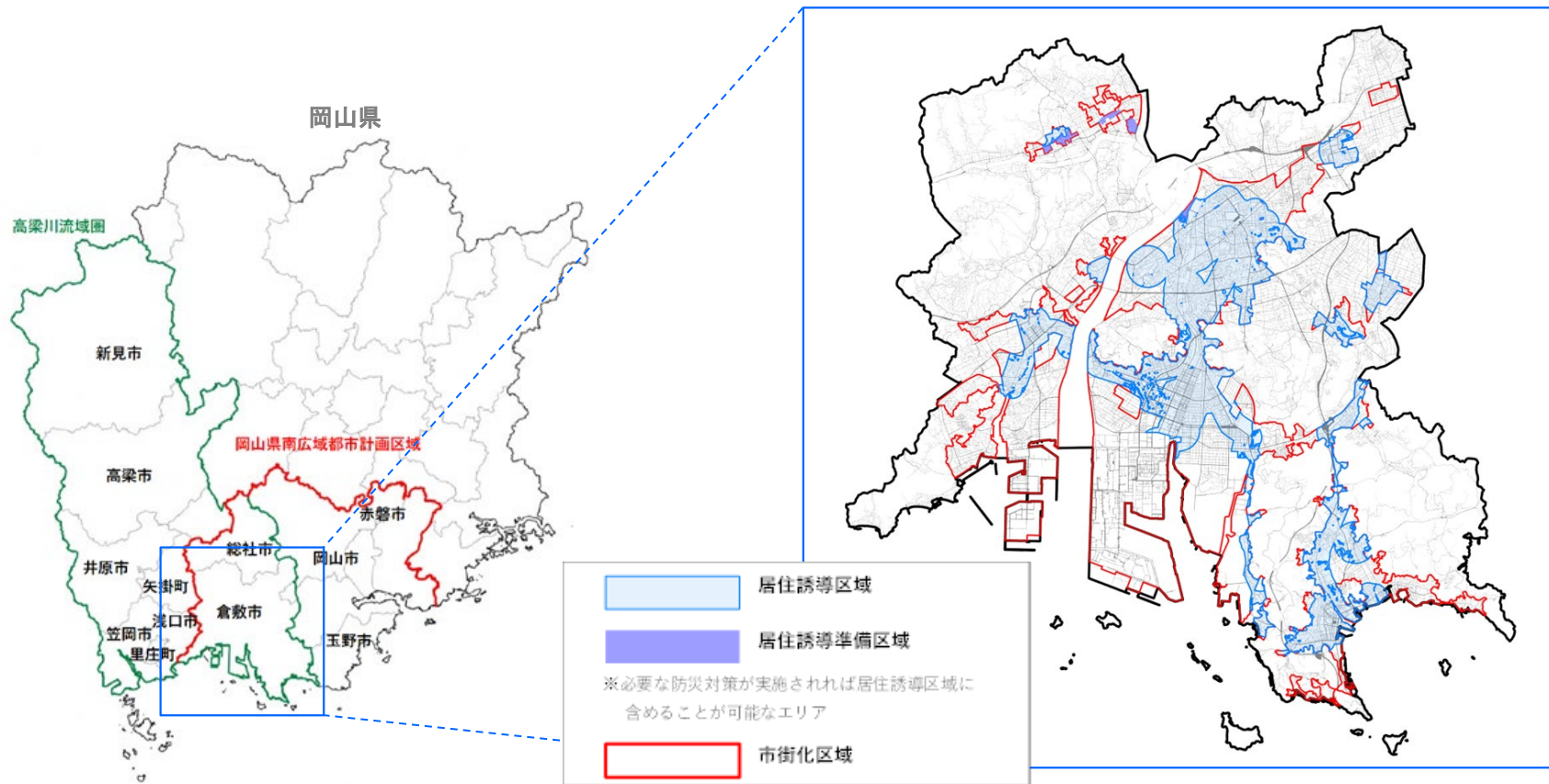


立地適正化計画変更に向けて ～表現手法の検討～



倉敷市都市計画課

1. 倉敷市の取り組み



- ・ 令和3年3月に「**倉敷市立地適正化計画**」を策定
 - ・ 令和8年3月の5年経過を目途に施策実施状況の調査、分析及び評価を行い、立地適正化計画の変更に着手する予定。
 - ・ ついては、立地適正化計画変更に際し、変更の必要性を理解することができる
- わかりやすい図資料を作成することが求められる。

2.現在の可視化状況

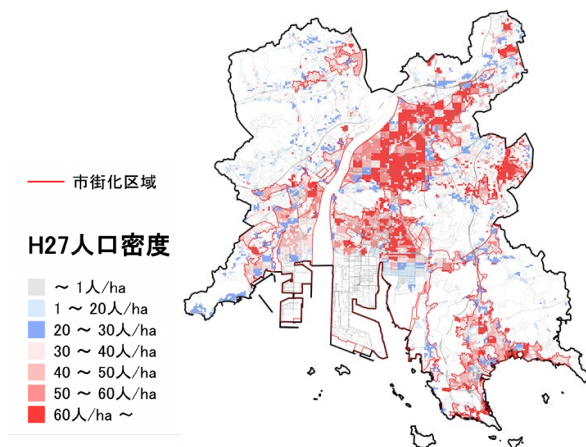


図 2-5 人口密度の分布
2015年（平成27年）

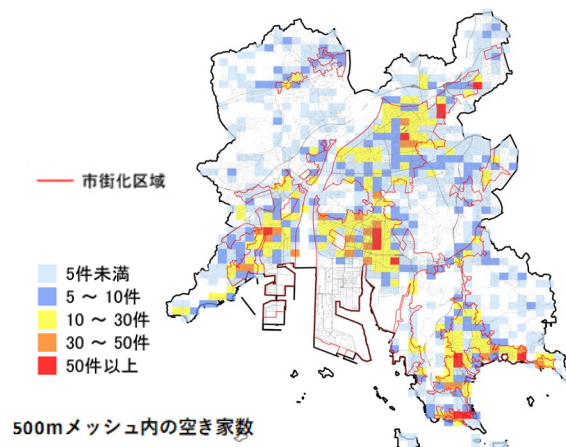


図 2-15 空き家の分布

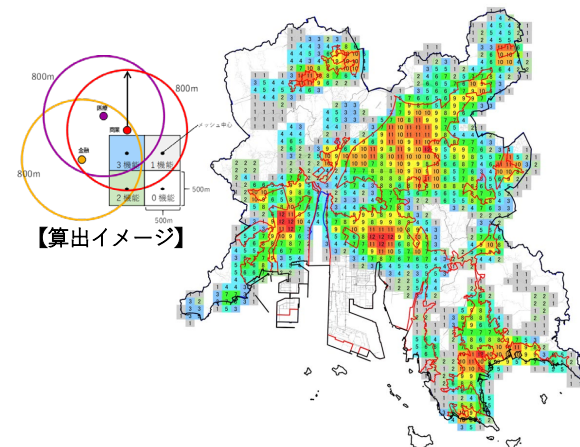


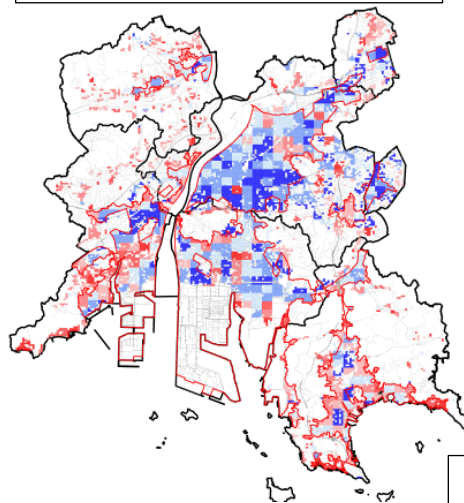
図 2-26 施設集積地の分析

- ・ 現在の「倉敷市立地適正化計画」においても、多様な可視化を試みている。
- ・ しかし、高さを加味した可視化表現は一部でしかできていない。
- ・ より多様な手法を用いることで、状況の可視化による検討の可能性を高めるとともに、一般市民でもわかりやすい表現を模索する必要がある。

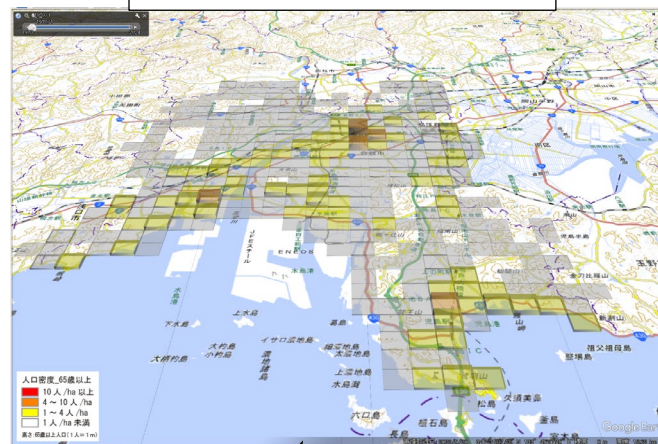
3.表現の検討－高齢化率

高齢者“数”の表現→中心部に高齢者が集中していることを可視化

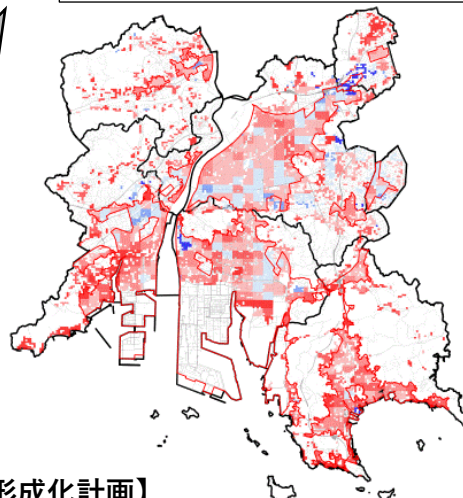
2015年（平成27年）



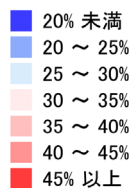
1970年（昭和45年）



2040年（令和22年）

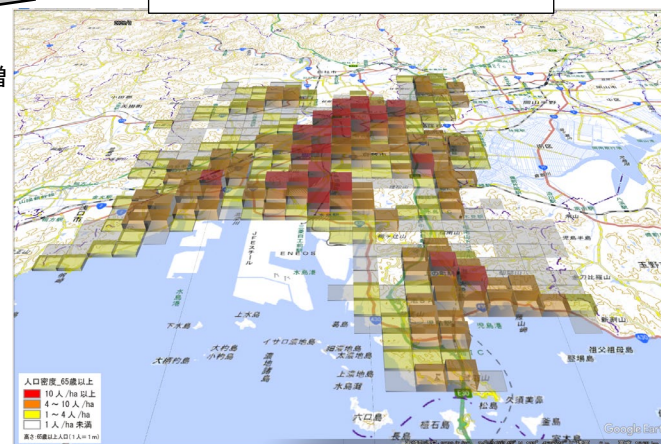


高齢化率



【現立地形成化計画】

2020年（令和2年）



※総人口は
約13万人増

【65歳以上人口密度（haあたり）】

4.表現の検討ー将来人口の見通し

若年者“数”の表現→ファミリー層が集中していないことを可視化

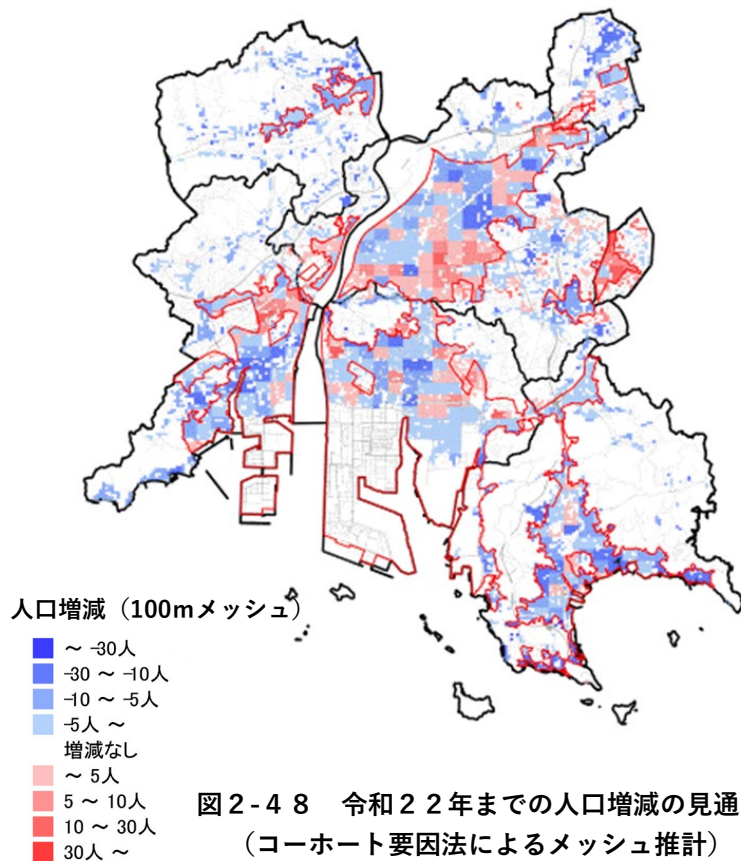
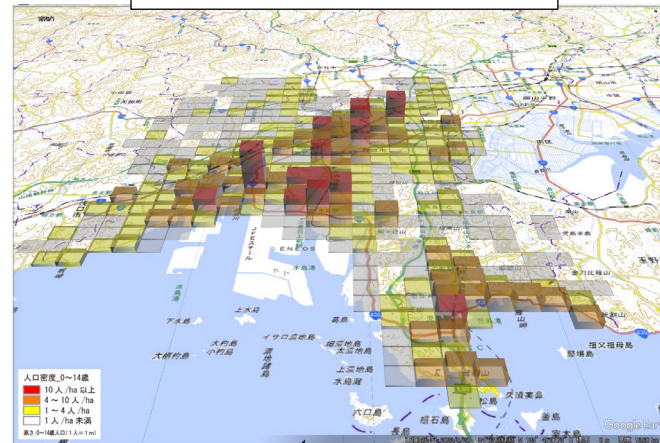


図2-48 令和22年までの人口増減の見通し
(コーホート要因法によるメッシュ推計)

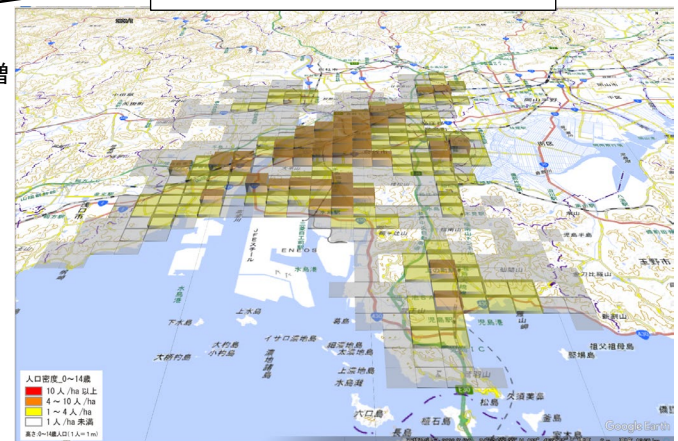
【現立地形成化計画】

1970年 (昭和45年)



2020年 (令和2年)

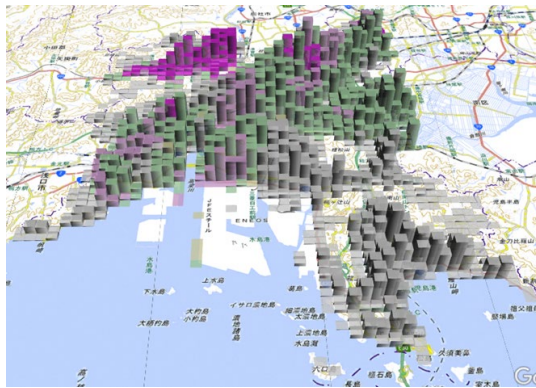
※総人口は
約13万人増



【0-14歳以上人口密度 (haあたり)】

5.表現の検討ーその他

高さをどのように活用するかで見え方が大きく変化する



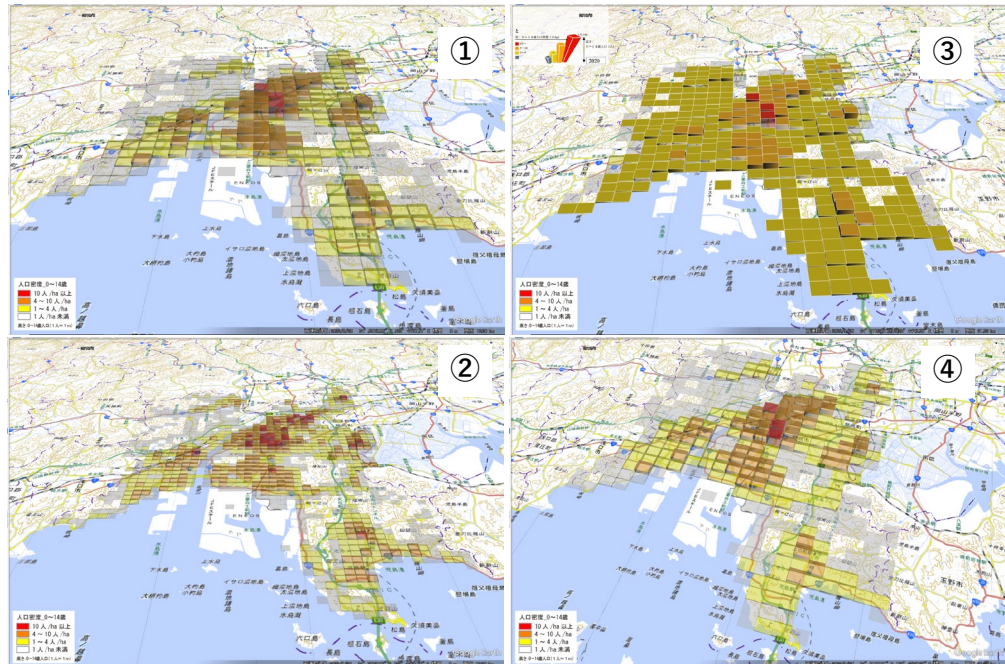
凡 例 ※3次元棒グラフの高さは人口を表す

洪水浸水想定(計画規模)

- 浸水深さ 0m
- 浸水深さ 0.5m未満
- 浸水深さ 0.5m以上3.0m未満
- 浸水深さ 3.0m以上5.0m未満
- 浸水深さ 5.0m以上

【高さ・色で別事項を表現】

【現地地形成化計画】



【0-14歳以上人口密度 (haあたり) 2010】

【高さ×色で事項を強調表現】

- ① 1kmメッシュ
- ② 500mメッシュ
- ③ 色彩幅の変更
- ④ 描画角度の変更

6.まとめ

「何を」可視化したいか、「どのように」可視化するか

- ・ 閲覧者にどのような情報を与えたいかによって適切な表現は異なる。

例 1) 高齢者福祉施設の需要はどこにあるか

→△総人口×高齢化率 ○高齢者数

例 2) 被災規模について知りたい

→△ハザードマップ ○ハザードマップ×人口分布

- ・ まちづくり当事者目線での「現状分析・将来予測」目的の可視化として
「何を」、「どのように」可視化するか、と
一般市民目線での「わかりやすさ・納得しやすさ」目的の可視化として
「何を」、「どのように」可視化するか、は別物であることを理解し、

どのような情報を可視化すべきか判断する嗅覚と、
得たい情報を認識しやすい表現テクニックを身に着ける必要がある。



倉敷市は、岡山県の南部に位置する人口は約48万人の中核市であり。倉敷駅を中心とした商・観光圏の他、水島地区の工業圏などを有しています。

倉敷駅周辺には倉敷美観地区、大原美術館を始め観光施設が集約し、駅周辺総合整備計画による魅力ある空間の創出を遂行しています。

